

記者の目



日下部 元美
北海道報道部

札幌市が6月1日、LGBTなどの性的少数者のカップルをパートナーとして公的に証明する「パートナーシップ宣誓制度」を導入した。全国の自治体で6例目だが、当事者と賛同者計100人以上が直接行政に働きかけて実現に結びつけたケースは初めて。2年前からこのテーマを取材し、画期的な動きだと感じている。ただ、性的少数者を取り巻く環境を変えていくのは容易ではない。制度が全国に広がると共に、理念が社会に浸透することを願う。

札幌市の要綱で定められた制度は、いずれかまたは双方が性的少数者であるカップルが「宣誓書」にサインして提出し、市が受領証などを交付する仕組み。生命保険の受け取りや住宅入居時の手続き、入院時の面会などが利用しやすくなると期待される。

私は記者になる前から性的少数者の知人がいたことから関心を持ち、札幌市で制度実現を目指す勉強会にも何度か参加した。十数人の小さな集まりで話を聞こうちに、当事者やそのカップルが日常生活

「札幌市「パートナーシップ制度」

で困難に直面している現状を知った。「保険契約、遺産相続はどうなるのか」「関係解消はどうするのか」などの質問が飛び交った。生活上、差別的な扱いをされないよう、形式的に養子縁組をした人までいた。

当事者と賛同者 行政に働きかけ

性の多様性尊重を巡っては、まず東京都渋谷区が2015年4月に条例を制定した。条例は違反者に対する是正勧告などの措置がある一方で議会の議決が必要で、ハードルが高い。世田谷区や兵庫県宝塚市など4自治体は、首長の裁量で法的拘束力のない要綱を定めた。

札幌市もこれに続いた形だ

が、その原動力となったのは当事者を中心に大学教授や弁護士らが参加した市民団体「ドメスティック・パートナー札幌」だった。16年3月に活動を始め、実際に市民の間に多くの要望があることを示そうと賛同者に署名ではなく住民票の提出を依頼した。予想を上回る144人分が集まった。シンポジウムを開くと、約320人が入る会場が人で埋まった。

市が呼びかけた意見募集に、当事者以外の市民からも「苦しんでいる性的少数者の友人がいる」「誰かに迷惑をかけた人人を傷つけたりすることではないのに、なぜ自由に生きたい気持ちを押さえないといけないのか」などの賛成意見が寄せられた。こう

した動きに後押しされて、市は制度導入にかじを切った。活動にかかわった柳谷由美さん(31)は制度スタートを迎え「自分たちがどう暮らしたかを考え、行動に移せば答えが出る」と実感している。喜んだ。市民団体代表で明治大学法学部の鈴木賢教授は「市民の行政への働きかけがきっかけとなったパートナーシップ要綱は、他の自治体でも実施が可能だ」と活動の広がりを期待する。

性の多様性を 尊重する社会に

ただ市に寄せられた2418件(5月19日時点)の意見の中には「結婚や家庭という伝統的な社会の基盤を優先すべきだ」「一層の少子化を招く」など制度反対のものも約45%あった。実際には同性愛の人は異性婚を否定しているわけでも、制度がなければ異性と結婚するわけでもない。

だが、市は当初4月としていた制度開始を「周知、理解が不十分」として2カ月延期。市の広報に仕組みを紹介する記事、ホームページには性的少数者や制度の解説を載せた。

批判の背景には、性的少数者への理解不足があると思う。15年の電通の調査では人口の7.6%、16年8月に連合が発表した調査では回答者の約8%は性的少数者だった。ただ一連の取材で会った人たちは差別や偏見を恐れ、当事者の会合など以外では公

表していない人が多くいた。呼びかけ人の一人、日野由美さん(61)は以前テレビに出た時、親類から母親に中傷の電話があったという。「カミングアウトは自分だけでなく、周りの大切な人にも影響を及ぼしてしまうこともある」と言う。1日に宣誓をした奥田真理さん(36)も「パートナーを家族や友人に紹介していく現状がある。当たり前のように伝えられる社会になるのが理想」と語った。

そうしたなか、「制度」として性的少数者を公的に認める意義は大きい。鈴木教授は「いわば公民権を得ること。社会的構成員として可視化されるきっかけになる」と評価する。全国の自治体は反対を恐れずに前向きに取り組んでほしい。

札幌市の性同一性障害の女性(戸籍上は男性)は期待の半面、宣誓の書類を見せたら、本意に反対が変わるのか、自分が性的少数者だと周囲に知れ渡ってしまうだけではないのかと不安を口にしていた。だからこそ、まず自治体が公営住宅での同居容認など具体的な施策に踏み込み、民間企業も制度を用いたサービス拡充を図るべきだ。性的少数者を特別な存在ではなく一人一人が生活者だと感じる機会を増やすことが、性の多様性を尊重した社会につながる。多様化した社会で個性を認め合うことこそ、今求められる大切な課題だと信じる。

広がれ「公民権運動」



記者会見で札幌市の「パートナーシップ宣誓制度」開始について喜びを語る「ドメスティック・パートナー札幌」の呼びかけ人ら＝札幌市中央区で1日、日下部元美撮影

表して

表して